

当院における肝炎医療コーディネーターの活動報告

肝炎ウイルスの院内潜在感染者拾い上げについて

◎田村 咲樹¹⁾、高山 莉沙¹⁾、芦川 直輝¹⁾、児玉 由美子¹⁾
学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属静岡病院¹⁾

【はじめに】当院のある静岡県東部・伊豆地域は全国的にみて肝疾患死亡率が高い傾向にある。入院時や術前スクリーニングで陽性と知りながらも治療を受けない未受診者も多く、課題となっている。静岡県肝疾患診療連携拠点病院である当院のB型肝炎およびC型肝炎ウイルスの陽性率と、陽性者受診勧告の流れ、その後の消化器内科への受診件数について報告する。

【対象・方法】対象は、2020年度と2021年度の院内で肝炎ウイルスの測定を行った、HBs抗原34,095件、HCV抗体33,568件（職員検診等は除外）である。測定は、2020年4月から12月まで富士レビオ社のルミパルスプレストII、2021年1月から2022年3月までロシュ社のcobas8000（e801）を用いて行った。受診勧告の流れ：検査室は週に1回、院内の肝疾患相談支援センターへ陽性者リストを提出する。肝疾患相談センターは当院消化器内科受診歴や治療歴を確認し、受診対象患者や要追跡患者のリストアップを行う。センター長に確認後、カルテ付箋でアラートをつける。看護部へ協力依頼を

し、御高診又は受診用紙使用により、患者へ消化器内科を受診していただくよう呼びかける。その後も、肝疾患相談支援センターで追跡調査を行う、という流れである。

【結果】陽性率は、HBs抗原が2020年度1.3%（検査数：16120、陽性者：209）、2021年度1.1%（検査数：17975、陽性者：194）、HCV抗体が2020年度2.4%（検査数：15861、陽性者：377）、2021年度2.4%（検査数：17707、陽性者：430）であった。院内紹介で消化器内科へ受診した件数は、2020年度48件、2021年度は78件であった。

【結語】現状では、専門医師や看護師が活動の中心であり、臨床検査技師による院内外での患者への啓発活動や肝疾患患者に対する支援は多くない。今後、他部署との連携を強めながら、臨床検査技師にしかできない肝炎医療コーディネーターとしての役割を模索していきたい。

連絡先 055-948-3111（内線 1402）